

2009年10月・2010年10月  
中村 啓一 作



## 1、新年点描 (前号からの続き)

### お節料理

以前は、土地により、家庭により、お節料理は特色を持っていたはず。私の父は岡山の田舎出身だから自然の贈り物を集めた野菜が中心。そこへ母が軍人家庭の肉のお節料理を持ち込み、さらに、新家庭の北海道産の生ま物が加わって「影山式お節料理」となったと思う。

軍隊式なハムに、今では珍しくもないがスジコ(イクラ)があった。私が近所の友に「ウチじゃア スズコを食べてる」と言ったら、その家の小母さんに追い出された。「スズコではなく筋子(スジコ)です。」と言うのが追出された理由だが、小母さんの名が「鈴子さん」だったのが最大の原因。

今ではスーパーで和式・洋式・中華式etc 何でもお好み次第。ハムもイクラも珍味ではない。しかし、今年の正月は老人二人なので、全てやめて黒豆のみとした。

### 歳の初めのためしとて

以前、元旦には学校で式典があった。最初に全校で「一月一日」を「松竹でんぐり返して大騒ぎ」などと歌い、校長式辞のあと、学級で担任の話聞いて生徒は下校。

職員室で改めてお屠蘇を祝って解散。私は例年、大晦日に宿直を引き受けていたから、そのあとで年越しの家へ帰ることになる。

近ごろの暮れの商店街では「お正月には風あげて、追い羽根搦いて遊びましょう」

などと大音響で流しているが、今でもそんな遊びがあるんかいねエ？

うちの孫なぞ「バリバリ・ガリガリ」の雑音の出る玩具ばかりで凧も独楽もない。「もう幾つ寝るとお正月」はメロディーだけでいいことにスッカ！

## 年賀状

いつも郵便を配達してくれる人が、私を見て「年賀状を買って下さい」というが、枚数未定。引っ越しの荷物で解いていないものがあり、とりあえず例年の半分とした。年賀状は昔からあったはずだが、郵便になったのはいつからだったろう？

私の郵便切手の収集に、古い年賀切手もいろいろとあったのだが、引っ越し騒ぎで行方不明となっている。かなり残念！

思い出すのは有度小学校時代の前田守一先生の版画。確か小糸製作所から運び込まれたと思われる厚い油紙に彫刻刀で切れ目を入れて模様を作り、カラーインクで刷って年賀状を作った。前田先生があれこれと教えてくれて楽しかった。「秀子ちゃん！元気ですか？」以後、材料も形も変わったが、自作の物で年賀するのが私流。しかし、今年は省略形。材料を買いに行ったが奈良には売っていない。お許してください。

自分が出せない年賀状だから、受け取りも少量かと思っていたら、沢山戴いた。清水局が転送してくれたのである。多くの人にご迷惑を掛けて申し訳ない。

頂いた賀状の多くが「奈良に慣れましたか？」と尋ねておられるが、答えは「慣れませーん」である。天候と地理は仕方ないが、人に慣れない。未だに友人が一人も出来ぬし、最も悩ましいのが「交通マナー」。

駄洒落に「奈良の道 ママさん車にご用心」とあるが、オバハン運転は「せっかち」が基本。スピード上げて急ハンドル・歩行者蹴散らし横入り。駐車禁止なんぞは知りまへん。である。私の車は静岡ナンバーなので、県名を背負って「馬鹿マジメ」に違反をしないように心掛けているが、毎日が危険でターイヘン。

## 初詣で

さすがに奈良。初詣の案内に、今までに聞いたことがないような行事がたくさん並んでいる。法隆寺では舍利講。東大寺では修正会。大安寺では竹灯りなど。春日大社は神楽始式・舞楽始式。大神神社の御神火拝戴式。橿原神宮は開運初神楽祈祷など。

新春行事も見当もつかないことばかり。

三十八神社や秋留八幡神社の鬼打ち式 陀々堂では鬼走り。吉祥草寺の左義長(とんど)や信貴山朝護孫子寺の左義長。他にも墨坂神社・大神神社・天河大弁財天などに(とんど)が記されているが、静岡で「どんど焼き」と言うのと同じらしい。

辞書の左義長には(さぎちょう)(どんど)の二つの振り仮名がある。

白毫寺では「閻魔詣」。法隆寺では夢殿修正会とあり、相当厳しいご修行らしい。観光的に拝見するものではないでしょうナ。18日の初観音は諸方で行われるようで、おふさ観音・西大寺・岡寺・松尾寺・壺阪寺など。平尾水分神社ではオンダ祭り。石上神社の御神符焼納祭など体力・気力があれば全て体験したいと思うが、今の老化具合では参加不可能。それよりも、信仰心もなく覗き見するのは不謹慎デスナ。

## 2、唐招提寺の大般若転読会

一月十五日に、家内と唐招提寺の『大般若転読会』へ参詣させてもらった。

家からさほど遠くないし、鳥坂の妙立寺でも毎年接していた行事なので、適当と思われた。著名なお寺の行事だからと早めに行ったが、広い駐車場は閑散としていて、係の人も「ここでは判りません」と手応えがない。

修学旅行でお馴染みの金堂で国宝仏と再会し、さて「大般若は何処で？」と辺りを見回すが何も無い。「期日を間違えたか？」と危ぶんでいると黄色い衣の僧侶の姿が見えたので追いかけるように付いて行く。

一見、地味な『礼堂・東室』が会場で、熱心な方が30人ほども参列されていた。

やがて法鼓と鐘の合図で法要が始まり、大般若経の転読となった。「大般若波羅密多経第〇〇卷 三蔵法師玄奘奉詔訳」と大声を挙げて経典をパラパラするなど、鳥坂のやり方と大差はないが、鑑真和上の伝えた律宗ならではの「所作の丁寧さ」が感じられる。

禅宗は・・チト乱暴・・イヤ元気がいい。

経本も、よく見る「宇治黄檗山万福寺の鉄眼判」より、もっと柔らかな表紙のようで、もし鑑真和上が中国から持参したなら国宝級である。(虫食いの穴がたくさんよく見える)

禅宗では、形式的に一人が二十冊程度を扱うが、ここでは全ての経巻を開くらしく、何度も終了の鐘が鳴らされたが、十人ほどの僧で六百巻を全て開巻させた。

般若心経を三回転読し、各種の真言が次々と唱えられて法要が終わる。

後ろを見ると参詣者が減っていたが、僧侶が来て「宜しかったら内陣に入り、十六善神を拜んで下さい」と言われるので、香をくべて礼拝する。この堂は重要文化財で、和上が持参した「金亀舍利塔」に仏舎利が祀られているようだ。私にも大般若転読のお札が与えられたので有難く頂戴して表へ出る。初詣でとしては得難い体験であった。



## 奈良新聞：読者文芸・時事川柳

ここでは、奈良新聞に掲載されている読者文芸の中から俳句と時事川柳を抜き書きして提供する。他に何紙もあろうが、一応「奈良新聞のもの」とする。

新聞社の編集方針は詳らかではないが、当方としては清水・静岡の皆さんに奈良を中心とする関西の風物をご紹介し、合わせて時事川柳でユーモアを提供したいと願っている。従って、作者の氏名・住所は割愛させていただく。時節柄、発行日より古い吟詠が多いと思われる。（今回は12/21以降のもの）

北面の天皇陵や冬の雨

虎落笛悲憤の皇子の声ならむ

（虎落笛=とらおふえ=風の発する音）

伸び伸びと啼く峰寺の冬鴉

鴉鳴き木立冬めく松尾山

留守のまの玄関にネギ置いてあり

若き日を憶う初雪金剛山

千布団 裏返しては信貴仰ぐ

行きづまる奈良の小路に鹿もいて

極月の良弁杉の雄姿かな

修二会 待つかに二月堂 佇まう

文殊院 大きな龍に手を合わす

この古寺の縁起は知らずお賽銭

縁起物 十日戎にまた出掛け

冬温し拝観の靴 揃え脱ぐ

筆初め 万葉仮名を手初めに

役所にもサンタが居るは法違反

父もデブ 息子もデブで 民はヤセ

北へ行きゃ 泣くも笑うも国の指示

引き回し 遺体凍結手を省く

北国で餓死する児には涙なし

このあたり女人はみんな犬を連れ

大阪に大阪都なら九州都

南方の陽なり ふるさと便届く

黄落やしばらく鹿に付いて行く

人吉は人良し 仲良し 快し

見たいなあ 一富士二鷹三茄子

子規詠みし釣り鐘堂も枯れており

エコヒイキするなヨ 賽銭少なくも

冬うらら 古都の旅館に母校の名

辰歳を七度迎えるこの至福

何もなし リニアの夢でも言うてみよ

### 3、庵原七人衆来宅

「夕方行きます」と電話があり、3～4人かと思ったら車から7人も出てきた。庵原中卒業の還暦連中。「まだ観光があるんで」とあっさりとした別れ。還暦っていいですな。一応、責任ある仕事が終わわり、小金は少々でも自由と体力がある。

